

健 第 291 号  
生衛 第 384 号  
平成 19 年 8 月 8 日

総務管理局総務学事課長  
共生推進局青少年課長  
福祉保健政策局子ども未来課長  
○ 福祉保健政策局長寿社会推進課長  
福祉保健政策局障害福祉課長  
健康局医務課長  
学校教育局健康体育課長

様

健康局健康対策課長  
(公印省略)  
食の安全局生活衛生課長  
(公印省略)

### 腸管出血性大腸菌感染症の予防に関する注意喚起について

今般、大阪市内の保育所において腸管出血性大腸菌感染症による集団感染が発生し、幼児 1 名が死亡するという事例が発生しました。また、県内においても、腸管出血性大腸菌感染症患者が増加しています。

県内の医療機関からの患者報告数は、16名（平成 19 年 8 月 7 日現在）であり、過去 5 年の同時期と比較し最多となっています。

一般的に、腸管出血性大腸菌感染症は 5 月～10 月に好発し、夏場が発生のピークになる傾向があり、特に施設などで発生した場合は集団発生につながることがあるので注意が必要です。

つきましては、当該内容についてご了知いただきますとともに、貴管下の社会福祉施設等に対して、別添により予防啓発等、注意喚起及び衛生管理体制の確認をお願いいたします。

#### 【参考】

- ・ 和歌山県健康対策課ホームページ  
(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/index.html>)
- ・ 食の安全・安心わかやまホームページ  
(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031600/>)
- ・ ○-157 Q&A (厚生労働省ホームページより)  
([http://www1.mhlw.go.jp/o-157/o157q\\_a/index.html](http://www1.mhlw.go.jp/o-157/o157q_a/index.html))
- ・ 高齢者介護施設における感染対策マニュアル (厚生労働省ホームページより)  
(<http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/tp0628-1/dl/0.pdf>)
- ・ 保育所における衛生管理状況調査報告書 (熊本県ホームページより)  
([http://www.pref.kumamoto.jp/HEALTH/HOIKU\\_EISEI/HOKOKUSYO2.HTM](http://www.pref.kumamoto.jp/HEALTH/HOIKU_EISEI/HOKOKUSYO2.HTM))



事務担当：健康対策課感染症対策班 平井  
Tel 073-441-2643 / Fax 073-428-2325  
生活衛生課食品衛生班 澤田  
Tel 073-441-2624 / Fax 073-432-1952

## 腸管出血性大腸菌感染症の処方に関する留意事項

### ◆病原体は？

大腸菌は、家畜や人の腸内にも存在します。ほとんどの種類の大腸菌は無害ですが、このうちいくつかのものは、人に下痢などの消化器症状や合併症を起こすことがあります。病原大腸菌と呼ばれています。病原大腸菌の中には、毒素（ベロ毒素）を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす腸管出血性大腸菌と呼ばれるものがあります。

腸管出血性大腸菌は、菌の成分によりさらにいくつかに分類されています。「0157」はこの腸管出血性大腸菌の一種で、正式には「腸管出血性大腸菌0157」と呼ばれています。この他に026、0111、0128など多くの種類があります。

### ◆症状や潜伏期は？

全く症状がないものから軽い腹痛や下痢のみで終わるもの、さらには頻回の水様便、激しい腹痛、著しい血便とともに重篤な合併症を起こす場合があります。しかし、多くの場合（感染の機会のあった者の約半数）は、2～14日（平均3～5日）の潜伏期をおいて頻回の水様便で発病します。さらに激しい腹痛を伴い、まもなく著しい血便となることがあります。これが出血性大腸炎です。発熱はあっても、多くは一過性です。

これらの症状の有る者の6～7%が、下痢などの初発症状の数日から2週間以内（多くは5～7日後）に溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を発症するといわれています。

激しい腹痛と血便がある場合には、特に注意が必要です

### ◆感染経路は？

飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取するか、患者の糞便で汚染されたものを口にすることが原因となります。ヒトを発症させる菌数はわずか50個程度と考えられており、少数の菌で感染が成立するためヒトからヒトへ二次感染を起こすことがあります。家族内での感染事例も多くみられます。潜伏期間が長いため、原因食品・感染源の特定が難しいのも特徴です。

また、動物と接触することにより感染した事例も報告されています。

### ◆原因食品は？

日本では、肉類、サラダ、野菜、井戸水などが、外国では、ハンバーガーなどのひき肉を用いた食品、生野菜、果物、アップルジュースなどが原因食品となった事例がみられます。

このように0157等はさまざまな食品から見つかっています。どんな食品も病原体に汚染される危険性があると考えて予防することが大切です。

### ◆万一感染した場合の、家族での注意点

まず必要なことは、患者さんと同じ飲食物を摂取した家族が感染していないかどうか、あるいは患者さんから家族への感染がないかどうかの診断を受けることです。この時に便の検査は、症状がなくても行われることがあります。同時に、家庭内の消毒についての知識を得て、必要な範囲での消毒を行います。

また、2次感染予防のために、日常生活での患者さんへの接し方についての知識を得て実行することが大切です。

これらのこととは保健所の職員が指導していますので、良く聞いて、分からぬことがあれば質問してください。

### ◆感染予防のポイントは？

- ① **ポイント1 手洗いの励行**  
トイレの後や、調理の前、食事の前には、石けんと流水でよく手を洗いま

す。患者の便を処理する場合（おむつの交換など）には、ゴム手袋や使い捨ての手袋などを用います。手袋を用いた場合も使用後には手を洗います。また、おむつ交換は汚染の拡大を防止するため、決められた場所で行います。

患者の世話をしたときは、手を洗った後、逆性石けんまたは消毒用アルコールで消毒（速乾性手指消毒薬が適しています）を行います。

ペーパータオル、個人の専用タオルで水気をふき取ります。タオルの共用はしないようにします。

#### ①(ポイント2) 消毒について

患者が使用したトイレ、洗面所等のドアのノブなどを消毒します。

（逆性石けんまたは両性界面活性剤などを規定の濃度に薄めて布に浸して絞り、拭き取ります。）

患者が使用した衣類などは、家庭用漂白剤につけ置きした後、他のものとは別に洗たくします。

逆性石鹼の薄め方

便器等消毒の場合（0.2%）

市販されている10%逆性石鹼2に対し、水98の割合で混ぜる。

タオル等に消毒液がある程度残留する位十分量をしみ込ませて確実に拭き取ってください。

例) バケツ一杯分（約10L）つくるには、

消毒薬200ml：水9800ml

家庭用漂白剤のうすめ方

食器の場合（0.01%）

消毒薬に30分以上浸漬後水洗いする。

例) 1升つくるには、家庭用漂白剤2ml：水998ml

着衣の場合（0.05%）

消毒薬に30分以上浸漬後、洗濯する。

例) バケツ一杯分（約10L）つくるには、

家庭用漂白剤100ml：水9900ml

※ 家庭用漂白剤の取り扱いは、ビニール手袋などをして、十分換気しましょう。

また、衣類の色落ちや金属物は腐食を起こす場合があります。

#### ②(ポイント3) 食品に対する注意

大腸菌は熱に弱いので、仮に食品が大腸菌に汚染されていたとしても、十分に加熱すれば安全です。生肉の調理に使用したまな板、包丁、食器等はよく洗浄した後、熱湯などで十分消毒します。（そのまま他の調理に使わないよう注意します。）

また、生肉を扱った後は、よく手を洗います。

野菜を生で食べる場合は流水で十分洗浄します。ブロッコリーなど複雑な形のものはゆでるなどして加熱します。

焼肉の時は、生肉を取る箸と食べる時に使う箸を別々にします。

調理した食品はなるべく早めに食べます。

#### ③(ポイント4) 患者入浴時の注意

患者はできるだけ浴槽につからず、シャワー又はかけ湯を使います。

患者が風呂を使用する場合は他の家族と一緒にに入ることは避け、乳幼児は患者の後に入浴しないように気を付けます。風呂の水は毎日替えます。バスタオルは、ひとりで一枚を使用し、共用しないようにします。

#### ④(ポイント5) プール使用時の注意

遊泳用プールについては衛生基準が設定されており、それに従って塩素による消毒がされています。また定期的に、プールの水に大腸菌群が含まれていないかどうか調査しています。

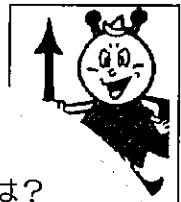
家庭用プールについては、水道水（いわゆる塩素消毒されている上水道の水）を利用し、使用のたびに水を交換しましょう。また、患者や下痢をしている子供などは、プールに入らないようにします。

# 腸管出血性大腸菌(O157等)感染症に注意しましょう。

## 1 腸管出血性大腸菌(O157等)について

### ➤ 感染力が強い

腸管出血性大腸菌は数十個程度の菌が体の中に入っても発病することがあるため、患者等の糞便などから二次感染することがあります。



### ➤ 潜伏期間

2~14日(平均3~5日)と長い。

### ➤ 主な症状

下痢(軽いものから頻回の水溶便・血便)・強い腹痛・発熱

※乳幼児や高齢者では重症になる場合があります。

※発生後、数日から2週間は、溶血性尿毒症症候群(HUS)\*を起こすことがありますので注意が必要です。



\*: 溶血性尿毒症症候群 (HUS : Hemolytic Uremic Syndrome) の略です。ペロ毒素により腎臓の細胞が侵害されて発病する、溶血性貧血、血小板減少、急性腎不全の3つを特徴とする状態。

下痢や腹痛のある時は早めに医療機関を受診しましょう。

### 腸管出血性O157とは?

大腸菌は、家畜や人の腸内にも存在します。ほとんどの種類の大腸菌は無害ですが、このうちいくつかのものは、人に下痢などの消化器症状や合併症を起こすことがあります。病原大腸菌と呼ばれています。「O157」はこの腸管出血性大腸菌の一種で、正式には「腸管出血性大腸菌O157」と呼ばれています。この他O26、O111、O128など多くの種類があります。

## 2 感染経路

菌がついた食べ物や飲み物を通じ口から体に入れます。患者や保菌者の便中の菌が手を介してうつります。

## 感染を防ぐには

### ① 食品に対する注意

- 十分に加熱(75°C、1分間以上)しましょう。調理した食品はなるべく早めに食べましょう。
- 生肉の調理に使用したまな板、包丁、食器等はよく洗浄した後、熱湯などで十分消毒しましょう。生肉を扱った後は、よく手を洗いましょう。
- 焼肉の時は、生肉を取る箸と食べる時に使う箸を別々にしましょう。

### ② しっかり手洗い

- トイレの後や、調理の前、食事の前には、石けんと流水でよく手を洗いましょう。
- タオルの共用はしないようにしましょう。
- 患者の便を処理する場合(おむつの交換など)にはゴム手袋や使い捨ての手袋などを用いましょう。手袋をはずした後も手を洗いましょう。



### ③ 風呂やプールは

- 患者はできるだけ浴槽につからず、シャワー又はかけ湯にしましょう。
- 下痢をしているなど体調の悪い場合は、プールに入らないようにしましょう。



### ④ 消毒方法は



- 患者が使用したトイレ、洗面所等のドアのノブなどを消毒しましょう。
- 逆性せっけんや消毒用アルコールで消毒してください。
- 衣類などは、熱湯や100倍に薄めた家庭用塩素系漂白剤に30分漬けたあと、他のものとは別に洗いましょう。